

新たな技術の開発を通じて、環境負荷の低減や生物多様性の保全、持続可能な食料生産に取り組み、低炭素・循環型社会の実現を目指します。

当社グループは「気候変動・環境負荷の低減」「生物多様性への貢献」「循環型社会への貢献」をマテリアリティとし、当社グループの持つ技術や知見、研究開発力を活かし、地球環境の保全、低炭素社会の実現に貢献することを目指しています。また、農水省の「みどりの食料システム戦略」への対応を進め、安定した食料生産と持続可能な農業の両方に貢献できる製品の開発・普及に努めています。

取締役 専務執行役員 吉村 巧



環境負荷低減への取り組み

農水省の「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに化学農薬のリスク換算での使用量低減や有機農業の拡大などの目標が掲げられています。

当社は新技術の開発・普及に取り組み、環境負荷低減や安全性向上に貢献してきました。今後より安全で安心な化学農薬の研究開発を続けるとともに、微生物農薬やバイオスティミュラントなどの研究開発を加速させます。加えて、農地から発生する温室効果ガス低減技術の実用化に向けたプロジェクトも進めています。

さらに、「スマート農業技術活用促進法」に資する技術革新にも注力しています。水稲用省力化製剤「豆つぶ[®]剤」はドローンやラジコンボートなどでの散布が可能であり、生産者の労力軽減や周辺環境への薬剤飛散低減を実現します。

株式取得したアグリ・コア社やGRA社は施設園芸における環境データを活用したアグリテックに強みを持ち、生産性向上や資源効率化に寄与します。今後は同社技術を他作物にも応用し、環境負荷低減と持続可能な農業の実現に貢献していきます。

生物多様性への貢献

当社グループは企業理念として「いのちと自然を守り育てる」を掲げ、生物多様性への貢献をマテリアリティの一つに掲げています。化学メーカーとして水資源や廃棄物の適正管理を行い、周辺の生物多様性にマイナスの影響

を与えないよう配慮しながら事業活動を行っています。さらに自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブを目指します。

1. クミカ レフュジア菊川(ビオトープ)の創設

静岡県菊川市の当社生物科学研究所の隣接地に、3,030㎡のビオトープを創設しました(2025年3月末完成)。以前この地域には自然豊かな田園風景や里山の景観が広がっていましたが、市街地化に伴い近隣の環境は大きく変化し、生物の生息数・生息場所が大幅に減少しました。かつて存在していた里山の景観を再現し、その場所に生息していた動植物をよみがえらせ豊かな自然の維持管理を目指します。

ビオトープには、せせらぎ・湿地帯・池・草原・雑木林を配置し、地域に生息する希少な動植物(ホタル、ニホンイシガメ、シラタマホシクサ、カキツバタ等)の保護活動を行います。ここでは当時の水田地域を再現し、適切なルールを守り農業を散布し、ホタルが舞う環境を目指します。当社がもつ知見を活かしながら、持続可能な社会の実現や生物多様性の維持に貢献していきます。

また、地域の子供たちに生物多様性や環境保全について学習してもらおう場としても活用し、環境意識を育むことにもつなげていきます。

2. クミカ レフュジア福島町の環境保全活動

当社は、北海道福島町に約640haの山林を1974年に取得し、維持・管理に取り組んできました。森の適正な管理を行うことにより、地域特有の動植物からなる豊かな生態系が維持されます。詳細は当社コーポレートサイトをご覧ください。 <https://www.kumiai-chem.co.jp/sustainability/environment/biodiversity/>



循環型社会への貢献

ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを構築し、「産業廃棄物の削減とリサイクル率の向上」「省エネルギーの推進および温室効果ガスの排出量の削減」を環境方針として定めています。2021年12月からグリーンな製造工場を目指す「ESGプロジェクト」を立ち上げ循環型社会への実現に向けた取り組みを行っています。

目標

グリーンな製造工場実現のために、以下の項目を目標としています。

- 1 使用エネルギーの削減
- 2 使用エネルギーの脱炭素化
- 3 原材料容器や工場間転送荷姿の材質変更、リサイクル使用

- 4 実績表など紙出力帳票のペーパーレス化
- 5 排出エネルギーの再利用
- 6 使用溶媒のリサイクル
- 7 廃水から有価物の回収

取り組み事例

静岡工場では製造過程で発生する化学物質が排水時に混入しないよう、各プラントから排出される排水を、社内排水設備で確実に処理したうえで工場から排出しています。特定の物質は水質汚濁防止法よりも厳しい自社基準を設け排水の水質を定期的にモニタリングしています。取水量、排水量や温度および透視度などは毎日モニタリングを実施し、万一化学物質の混入が疑われた場合は排出を止める措置を講じます。

温室効果ガス(GHG)排出量および環境データ

		GHG排出量 (t-CO ₂ /年)			
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
Scope 1	事業者自らによる温室効果ガスの直接排出	47,702	47,982	44,182	44,973
Scope 2	他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出	17,459	18,142	13,997	7,098
Scope 1+2	排出量合計	65,162	66,124	58,178	52,071
	売上高当たりの排出量原単位 (t-CO ₂ /百万円)	0.605	0.503	0.397	0.358
	1. 購入した製品・サービス	—	189,859	195,898	208,663
	2. 資本財	—	27,470	24,880	28,322
	3. Scope1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	—	12,171	11,461	11,197
	4. 輸送、配送(上流)	—	11,715	8,867	9,491
	5. 事業活動から出る廃棄物	—	7,676	10,902	10,782
	6. 出張	—	221	220	220
	7. 雇用者の通勤	—	1,003	1,007	989
Scope 3	8. リース資産(上流)	—	0	0	0
カテゴリ	9. 輸送、配送(下流)	—	769	590	492
	10. 販売した製品の加工	—	0	0	0
	11. 販売した製品の使用	—	0	0	0
	12. 販売した製品の廃棄	—	3,729	3,636	2,670
	13. リース資産(下流)	—	66	66	44
	14. フランチャイズ	—	0	0	0
	15. 投資	—	0	0	0
	排出量合計	—	254,680	257,526	272,869

	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
エネルギー使用量(原油換算)	kL	33,559	33,199	31,554	27,895
電力購入量	MWh	57,016	55,992	55,729	56,022
内再生可能エネルギー量	MWh	12,635	12,420	25,184	40,827
取水量	千m ³	—	4,187	3,835	3,585
産業廃棄物量	千トン	—	8,653	11,124	12,021

※ クミアイ化学工業、理研グリーン、イハラニッケイ化学工業、ケイ・アイ化成、イハラ建成工業、尾道クミカ工業、クミカ物流の7社を対象とする。なお、連結の売上高に占める7社の割合(カバー率)は、90.7%(2024年度)。